

食品のおいしさと安心を科学する技術情報誌

月刊 **フードケミカル**



新社屋着工を開始、 来年夏の竣工を目指す

..... キミカ

キミカは8月30日、オフィス、研究開発ラボ、品質管理ラボ、福利厚生施設を集約した新社屋（千葉県富津市）の着工を開始した。施工は複数社による入札の結果、業界最大手の大成建設が行うこととなり、同日には地鎮祭も行われた。新社屋は来年夏の竣工を目指す。

新社屋の設計を担った類設計室は、会社に抱く将来のビジョンや希望などを広く社員にヒアリングし、細部に至る部分まで社員の声を反映し設計を行った。正面道路に面した2階は全面ガラス張りで、内部は柱のない24×70mの巨大空間を中心に、理化学試験や機器分析などを行う各試験室などがある。さらに、ユーザーとの共同開発を行うことができる「食品アプリケーションラボ」や約100名を収容できるセミナー室などを併設予定。社内外問わないコミュニケーションの加速を図る。1階と2階は建物中央に配置されるクロス階段（内階段）でつながり、コミュニケーションスペースを確保。壁ではなく、取り外し可能な仕切りで区切った部屋もあり、レイアウトの自由度を高めている。

同社は昨年、日本のSDGsの最高賞である「ジャパンSDGsアワード」の特別賞を受賞した。オフィスにおいても、輻射熱の特性を活かした「次世代型輻射式空調」を採用し、無風・無音かつ温度ムラのない体に優しい空間を演出。一般的な空調と比べ環境負荷が50%以上削減可能となる。

